



日本学術会議公開シンポジウム

いま、「排外主義」を考える ——共に生きる社会は可能か？——

2026年

2月21日

土

オンライン開催

事前参加申込み制
(2月19日〆切、先着順)

13:30~16:00

申込み
URL

<https://kansai-gaidai-university.form.kintoneapp.com/public/20260221gakujutsusympo>



近年、国際社会では、グローバル化がますます進む中で、移民・難民に対する排斥の動きが顕在化している。日本では、「外国人」に対する制度的・社会的排除や、「外国人」憎悪をあおる言葉の拡散など、「排外主義」的な状況を目にする機会が増えている。それでは何が「排外主義」なのか。現在の外国人・移民政策にはどのような背景があるのか。人種差別や人権侵害に触れる問題はないのか。そもそも多様な出身・文化背景をもつ人びとが共に生きることは可能なのだろうか。

本シンポジウムでは、これらの問題を研究してきた専門家がその知見と問題意識を共有し、続いてそれぞれの現場における実践から、共生社会を実現するためのヒントを共に模索したい。

開会

趣旨説明 竹沢泰子（関西外国語大学国際文化研究所）

第一部 「排外主義」を考える

司会：吉村真子（法政大学社会学部）

講演1 現代日本における排外主義

高谷 幸（東京大学大学院人文社会系研究科）

講演2 「排外主義」と憲法・国際人権法・人権法

江島 晶子（明治大学法学部）

話題1 ヨーロッパの排外主義

稲葉奈々子（上智大学総合グローバル学部）

話題2 公人による人種差別の助長・扇動行為

村上正直（奈良大学文学部）

第二部 現場からの共生への展望

司会：鈴木茂（名古屋外国語大学現代国際学部）

話題3 多文化共生社会における自主夜間中学の意義

田巻松雄（宇都宮大学名誉）

話題4 難民・外国人労働者支援の現場から見えるもの

坂西卓郎（公益財団法人PHD協会）

話題5 地方自治体における多文化共生施策

大西楠テア（東京大学法学部政治学研究科）

全体討論

閉会

主催：日本学術会議第一部会地域研究委員会多文化共生分科会

後援：日本文化人類学会 日本社会学会 関西外国語大学国際文化研究所